

最も身近な住民組織

～行政区活動に理解と協力を～

行政区は、一定の地域に住む方たちによって自主的に組織され、地域内のさまざまな問題解決に取り組むなど、豊かで住みよい暮らしをつくっていく最も身近な住民組織の一つです。

うきは市内には、158の行政区があり、それぞれのルールを持って、創意工夫しながら地域の力として活動しています。

◆行政区活動への参加は面倒？

近年では以前に比べ家庭環境や働き方が多様化しており、社会の課題も複雑化しています。その中で、休日の清掃活動や行事の準備、役員が担う仕事等を「面倒」「わずらわしい」「自分たちには関係ない」と感じ、行政区へ加入する動機が低くなっている傾向もあります。しかし、知らず知らずのうちに行政区活動の恩恵を受けています。

◆いざという時に頼りになるのは

近年、全国各地で自然災害が発生しています。そのような中、東日本大震災や平成29年の九州北部豪雨などでは、地域住民による避難誘導や災害直後の救出などで、行政区のような住民組織が大きな役割を果たし、「住民同士の助け合い」が注目されています。災害に限らず、いざという時や困った時、近所の方の顔も名前も分からないということでは、助け合うこともままなりません。いざという時に頼りになるのは、地域に住んでいる皆さんです。

◆行政区活動はどんな事をしている？

例えば、夜道を照らす防犯灯の設置・管理や防犯パトロールなどの「防犯活動」、道路・河川愛護によるごみ拾いや草刈りなどの「環境美化活動」、高齢者等の訪問・見守りなどの「福祉活動」等、行政区に加入している皆さんで協力しながら活動を行っています。

◆「お互いさま」と「思いやり」を

行政区活動が定着し、さまざまな機会で開催が生まれれば、お互いに助け合うことができます。いつ起こるか分からない災害時はもちろん、生活する地域環境を居心地のよいものにするために、行政区活動が重要な役割を担っています。そして、その活動は、より多くの方からの理解と協力が不可欠です。

まちづくりの主役は市民の皆さん一人ひとりです。自らが住む地域の一員として、行政区活動で地域をよりよくしていきませんか。

身近で頼りになる地域の和 (活動の一例)

環境美化

道路・河川愛護、花いっぱい運動、ごみ集積場管理など

交流・親睦

子ども会や敬老会など、交流や親睦を深める活動

支え合い

年齢や性別、障がいの有無に関係なく住みよい地域づくり



防犯・防災

自主防災組織の結成や避難訓練など
防犯灯の設置・管理、防犯パトロールなど

情報伝達

地域の情報等を回覧板等で素早く伝達

見守り活動

通学路の見守りや高齢者宅への訪問など

8月
は
行政区加入推進月間

